

## 第19回 PI外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年5月13日（火） 午後7時00分～9時00分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：23名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬） 湯山 茂（練馬） 宿澤 藤子（杉並） 本橋 又藏（杉並）

新 守一（三鷹） 富澤 和也（三鷹） 渡辺 俊明（調布） 石井 一成（狛江）

橋本 妙子（狛江） 秋山 光男（世田谷） 江崎美枝子（世田谷） 栗林 勝彦（世田谷）

地元自治体

平野 和範（練馬区部長） 倉田 征壽（杉並区部長） 井上 良一（武蔵野市課長）

柴田 直樹（三鷹市部長） 新谷 景一（調布市部長） 大川 宗男（狛江市部長）

栗下 孝（世田谷区部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官） 伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）

成田 隆一（東京都外かく環状道路担当部長） 宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約50名

5. 概要：

## 【環境に与える影響について】

- ・シールドトンネルの地下水脈に与える影響は重要であるため、事前のボーリング調査が必要。
- ・今でも東名は渋滞しており、外環が東名まで出来れば世田谷の環境が悪くなる。大泉の現状がどうなっているかは、世田谷としても知りたい。
- ・動植物の調査については、PIと同じように市民が参加するしくみをつくるべき。  
地下水については、現地の調査をして、シミュレーションをする必要がある。  
環境については今後、詳細な検討が必要。環境基準を超えないような対策を実施していく。  
(国回答)
- ・青梅街道にインターチェンジができると多くの交通量が発生し、換気塔もできる。住んでいる人間の命が一番大事と思うが、行政はどのように考えているのか。
- ・外環道が出来た場合、善福寺公園等の生態系が崩れることが心配。
- ・青梅街道にインターチェンジができると換気塔も必要になり立ち退きが増えるので絶対反対。  
青梅街道インターチェンジについて、引き続き地元のご意見を把握していく。  
インターチェンジを造った場合、出入りする交通が環境に影響を及ぼすと考えられ、大気、騒音など、詳細な現地調査をして影響がどの程度なのか検討していかなければいけない。  
移転棟数は、1棟でも少なくなるように施工方法等を検討していきたい。  
(国回答)
- ・環境に与える影響、生活に与える影響の資料は最も影響が大きい開削区間について整理すべき。
- ・練馬区としては外環の南伸は必要。青梅街道インターチェンジも必要と考えているが、地下水、換気塔について各協議員から出されている意見を充分議論するため、早く現地調査をすべき。
- ・換気塔の位置がどこか正確に答弁いただきたい。
- ・換気塔だけで排気ガス処理を考えるのではなく、他にも違った視点で見ること必要。
- ・換気の議論をするためには、交通量等のデータを出して議論すべき。
- ・インターチェンジがなければそこには換気塔はつくらないことを確認したい。  
換気塔については、最低3カ所は必要と考えているが、具体については、トンネル延長や交通量などを踏まえて検討を行う。  
換気所の大きさは、送風機の大きさによって変わってくる。  
(国回答)
- ・具体的なデータ、根拠も無い段階で、換気塔の位置について軽々しく発言すべきでない。
- ・人工物と自然との共存を考えるべき。外環道そのものも、なるべく被害の少ない方法で考えていくべき
- ・地元の個別の議論は、協議会の議論が拡散してしまうため、別の場ですべき。

## 【その他】

- ・地上部街路の議論については、今議論している高速道路の必要性の有無とは切り離し、高速道路の議論がある程度集約された段階で地上部街路の議論を行うこととする。
- ・6月にこれまでの議論及び今後の課題を整理したとりまとめを行う。そのため、これまでの議論した内容や今後の課題等について事務局で整理し、6月の協議会で資料提出する。
- ・7月以降の協議会をどうするかについては、運営懇談会で議論する。